

日本語について（対象：外国人留学生，外国高等学校在学経験者〔帰国生徒等〕）

（2006から2009年度入学者に適用）

この講座の目的は、日本語を母語としない学生が、適確なことばを使って意思伝達を行う能力を身につけることです。とくに、大学生活を送る上で必要になる日本語の技術を学ぶことに重点を置いています。

本学に入学してきたみなさんは、自分の希望や考えをある程度伝えられる力をすでに備えています。次にみなさんがなすべきことは、そのレベルで満足するのではなく、日本語で表現されていることをより正確に理解する、自分の考えていることを正確に理解してもらうための勉強です。なんとなく伝わればOK，というレベルは卒業です。

外国人留学生や外国高等学校に在学した経験を持つ皆さんの発想やアイデアは、教員にとって時に斬新であり、刺激的で、強く訴えかけてくるものがあります。そのようなみなさんの考えを、授業の中で知ることが教員にとって幸せなことです。しかしながら、日本語の教員は、外国人留学生や外国高等学校在学経験者のみなさんの日本語に慣れているので、何を言いたいのか、推察しながら聞いたり読んだりすることができますが、そうでない人には、誤解を生んだり、表現したいことがなかなか伝わらなったりすることがあり、常々、これはもったいないことだと感じています。この問題については、大学3年生，4年生になっても悩んでいる留学生がよくいます。正確に伝わらない原因はさまざまです。単純な文法の間違いであったり、漢字の読み間違いであったり、発音の問題であることもあります。また、言語面での問題ではなく、理論立てそのものに矛盾がある場合もあります。

この講座では、言語面での応援をします。多くの学生が嫌う文法も避けては通れません。地道に書く，という作業もともないますから、辛いと思う人もいるかもしれません。しかし、みなさんの表現したいことを理解するためには必要な行程でありますのであらかじめ修業だと思って参加してください。外国人留学生，外国高等学校在学経験者のみなさんだからこそつ強みを十分に生かし、本学において、日本語母語話者の大学生に刺激を与える存在になってほしいと願っています。

効果的な履修を行ってもらうために、オリエンテーション時に、プレースメントテストを行います。これは新入生を対象とするガイダンスの中で行います。プレースメントテストの結果をもとに教員が履修のアドバイスします。どの科目を履修するかは、アドバイスを参考に決めて下さい。

外国語科目としての日本語は、「日本語A」から「日本語E」まであります。それぞれの科目名の最後につく「」と「」は、それぞれ「」が前学期科目、「」が後学期科目という、開講時期を示します。なお、各科目ごとのより詳しい内容はシラバスを見てください。

日本語A

「読む，聞く，書く，話す」の基本的な4技能の向上を目指す科目です。やや基礎的な内容を中心としますので、基本的な文法の確認や発音の矯正なども含みます。大学の授業についていく自信が十分でない学生は、この科目から履修することをすすめます。

日本語B

「A」より「書く」ことに集中したクラスです。とくに、大学の講義を受ける上で要求されるレポート，答案，論文の書き方などを学びます。「書く」だけではなく、何かを書くためには、何かを読む作業も必要になりますので、「読む」練習も加わります。

日本語C

「話す」「聞く」練習を中心としますが、とくに、大学生活を送る上で必要になる表現の技術を中心に学びます。たとえば、ゼミでの発表や、日常生活における口頭伝達などの練習です。

日本語D

「B」「C」よりさらに高度なレベルで要求される授業で、「書く」ことを中心とします。日本事情に関する内容も含みます。

日本語E

「D」と同じく、「B」「C」よりさらに高度なレベルで要求される「表現」のための授業です。「読む・書く・聞く・話す」4技能のすべての応用練習で、高度な語句の履修なども含みます。